

名作 浮世絵 の世界

喜多川歌麿・東洲斎写楽・葛飾北斎



2022.8.1 [月] ~ 8.21 [日]

会場：まちなか交流館『囲炉裏』

〒953-0041 新潟市西蒲区巻甲 2213-1 (巻駅通り 本町通り交差点)

AM 10:00 ~ PM 6:00 会場電話：0256.72.1610

定休日：8月3日・10日・14日・15日・17日

無入
料場

展示品は全て『東京国立博物館所蔵の複製品』になります

総合案内・お問合せ先：025-271-9284 (株式会社 養玲社・ukiyo-e space)



本展では、江戸時代後期を代表する浮世絵師の喜多川歌麿・東洲斎写楽・葛飾北斎の代表する浮世絵（錦絵）を展示いたします。オリジナルならではの雰囲気と彫師の技をご覧ください。



東洲斎写楽筆 / 三代目 大谷鬼次の江戸兵衛

寛政6年(1794年)5月河原崎座で上演された演目『恋女房染分手綱(こいにようぼうそめわけたづな)』の中で三代目・大谷鬼次(おおたにおにじ)が演じた「江戸兵衛(えどべえ)」を描いた作品です。江戸兵衛は悪人の頭で、鷺塚八平次に加担し、奴一平から金子三百両を奪う役です。本図は、浪人姿の江戸兵衛が、懐から両手を突き出して奴一平に襲いかかろうとしている場面といわれています。三代目・大谷鬼次のつりあがった目に加え、大きな鼻と広い口が強調されることで、鑑賞者に江戸兵衛の強さがより感じられる作品となっています。

Toshusai Sharaku

寛政6年(1794年)突如として現れた写楽、その生没年は未だに不明である。

何の前ぶれもなく発表された作品は、誇張された描写が目飛び込んでくるという前例のないもので、

わずか10ヶ月余りの間に、142点もの浮世絵を世に送り出し、1年にも満たない活動は余りにも短く、現在でも謎が多い。



喜多川歌麿筆 / 高名美人六家撰：扇屋花扇

本図は、『高名美人六家撰(こうめいびじんろっかせん)』シリーズの「扇屋花扇(おうぎやはなおうぎ)」という作品になります。

『高名美人六家撰』とは、寛政時代(1789年～1801年)に江戸で有名な美女6人を歌麿が描いたシリーズで、本図は、扇屋の最高位遊女の花扇を描いています。

当時非常に評判が高く人気のあった花扇は、手紙を綴る姿で描かれていることが多く、美貌と共にその教養の高さが伺えます。手紙を書こうとして筆をとったものの、一瞬のためらいをもったところを巧みにとらえた作品で、感情がこぼれるほどに表現されている作品です。

Kitagawa Utamaro

歌麿は、江戸時代を代表する浮世絵師のひとりである。浮世絵の黄金期に、美人画絵師として活躍をした。

歌麿の美人画が高評価を得ていたのは、描かれた女性が美しいということだけではないだろう。

歌麿は、女性の顔に気持ちや心映えを込め、表現することができた。